

発行日：令和8年7月18日

発行：朝霞市教育委員会 文化財課



## 埋蔵文化財最新発掘調査情報



◆朝霞市では、現在71か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。



なかみち・なかみちしたいせき

中道·中道下遺跡第14地点

調 査 地：朝霞市浜崎四丁目地内

期 間：令和7年10月24日～11月19日

調査面積：81.64 m<sup>2</sup>

◆今回の調査では、竪穴住居跡4軒・土坑1基、ピット等が確認され、遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・土製品が出土しました。

竪穴住居跡は、いずれも調査区外へ拡がっており、完全な形は不明でしたが、うち3軒(1J・2J・4J)は住居内より出土した遺物から弥生時代後半～古墳時代前期のものと考えられ、残りの1軒(3J)は出土遺物から古墳時代後期のものと考えられます。住居跡内には炉跡(2J)や柱の穴(1J・4J)、貯蔵穴(1J・2J)、壁溝(壁際に沿って溝を掘り、雨水等の侵入を防ぐための掘り込み)といった付帯施設も確認されました。

当調査地点周辺は、これまでの発掘調査結果から縄文時代～平安時代にかけて断続的に遺構が確認されています。各時代で複数の竪穴住居跡が見つかっていることから、各時代ごとに集落が存在していたと想定され、中でも弥生時代後半～古墳時代前期にかけては、検出状況から中～大規模集落の存在が想定されています。

まだ未調査地の部分も多いため、どのくらいの範囲や規模の集落であったかは不明ですが、調査行われることで少しずつ解明されていくものと考えられます。

今後の調査が楽しみです。



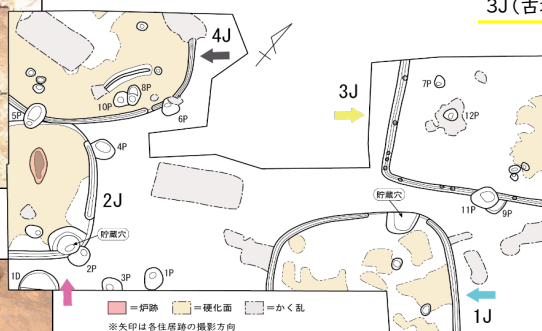
中道·中道下遺跡第14地点 位置図



4J(弥生後～古墳前)



2J(弥生後～古墳前)



3J(古墳後)



3J内遺物出土狀況(土師器)



IJ(弥生後～古墳前)

中道・中道下遺跡第14地点



# 縄文時代～平安時代の住居跡検出状況(掘立柱建築物含む)

■ =縄文時代   
 ■ =弥生時代後半～古墳時代前期   
 ■ =古墳時代後期   
 ■ =奈良～平安時代

## No.14 中道・中道下遺跡

12.1

10地点

8地点

9地点

14地点

7地点

## No.15 西久保・宮山遺跡

17地点

5地点

20地点

8.2

試掘調査で確認された  
同時期の住居跡

まだ掘ってない  
場所にもいっぱい  
住居跡が眠ってる  
のかな？



中道・中道下遺跡第14地点を含む周辺地点での遺構検出状況